

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2017-144113

(P2017-144113A)

(43) 公開日 平成29年8月24日(2017.8.24)

|                |              |                  |                |              |                  |
|----------------|--------------|------------------|----------------|--------------|------------------|
| (51) Int. Cl.  |              | F I              |                | テーマコード (参考)  |                  |
| <b>A 4 4 B</b> | <b>19/16</b> | <b>(2006.01)</b> | <b>A 4 4 B</b> | <b>19/16</b> | <b>3 B 0 9 8</b> |
| <b>A 4 4 B</b> | <b>19/26</b> | <b>(2006.01)</b> | <b>A 4 4 B</b> | <b>19/26</b> | <b>3 E 0 6 4</b> |
| <b>B 6 5 D</b> | <b>33/25</b> | <b>(2006.01)</b> | <b>B 6 5 D</b> | <b>33/25</b> | <b>A</b>         |

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 12 頁)

|           |                            |          |                        |
|-----------|----------------------------|----------|------------------------|
| (21) 出願番号 | 特願2016-29364 (P2016-29364) | (71) 出願人 | 000001100              |
| (22) 出願日  | 平成28年2月18日 (2016.2.18)     |          | 株式会社クレハ                |
|           |                            |          | 東京都中央区日本橋浜町三丁目3番2号     |
|           |                            | (71) 出願人 | 505400141              |
|           |                            |          | オルディ株式会社               |
|           |                            |          | 大阪府大阪市中央区北久宝寺町3丁目5番12号 |
|           |                            | (74) 代理人 | 100105957              |
|           |                            |          | 弁理士 恩田 誠               |
|           |                            | (74) 代理人 | 100068755              |
|           |                            |          | 弁理士 恩田 博宣              |
|           |                            | (72) 発明者 | 吉岡 直記                  |
|           |                            |          | 東京都中央区日本橋浜町三丁目3番2号     |
|           |                            |          | 株式会社クレハ内               |

最終頁に続く

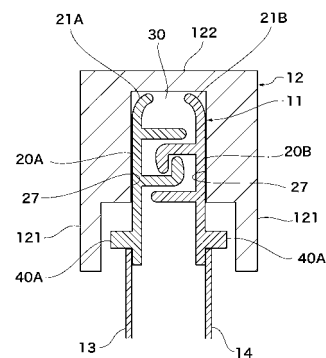
(54) 【発明の名称】 スライダー付きバッグ

## (57) 【要約】

【課題】本発明の目的は、使用者がスライダー付きバッグを開け易く、かつ使用者の意図しない状況において密閉状態が解除されてしまわないスライダー付きバッグを提供することである。

【解決手段】本発明に係るスライダー付きバッグ1は、バッグ10の開口部に取り付けられているスライダー12を、スライダーガイド機構11に沿ってスライドさせることによって開口部の開閉が可能であり、スライダーガイド機構は、一対の密閉レール20(20A, 20B)と、一対の開放レール21(21A, 21B)と、バッグを密閉状態とした際に、スライダーに設けられている分離機構25が開放レールに接しないようにするための切欠き端部24と、を有し、バッグが密閉状態であるときに、一対の開放レール同士の間には、空隙30が設けられており、分離機構が一対の開放レールの間の空隙に挿入されることで、一対の密閉レールの嵌合状態を解除する。

【選択図】 図3



**【特許請求の範囲】****【請求項 1】**

バッグの開口部に取り付けられているスライダーを、前記開口部に設けられたスライダ－ガイド機構の一端部から他端部に沿って前記一端部側にスライドさせることによって前記バッグを密閉状態とし、その後、前記他端部側にスライドさせることによって、前記密閉状態を解除することで、前記開口部の開閉が可能なスライダー付きバッグであって、

前記スライダーガイド機構は、

嵌合することによって前記バッグを密閉状態とするために、前記開口部に沿うように、互いに対向して設けられている一対の密閉レールと、

該密閉レールよりも前記バッグの開口縁側に該密閉レールに沿って設けられている一対の開放レールと、

前記一端部側の前記開放レールの端部に連設し、前記バッグを密閉状態とした際に、前記スライダーに設けられている分離機構が前記開放レールに接しないようにするための切欠き端部と、を有し、

前記バッグが密閉状態であるときに、前記一対の開放レール同士の間には、空隙が設けられており、

前記スライダーが前記他端部へ向かってスライドする際に、前記分離機構が前記一対の開放レールの間の前記空隙に挿入されることで、前記一対の密閉レールの嵌合状態を解除することを特徴とするスライダー付きバッグ。

**【請求項 2】**

前記スライダーは、前記スライダーガイド機構を跨ぐ頂面部を有し、

前記スライダーを前記バッグが密閉状態となる位置に配置したとき、前記頂面部の前記他端部側の端は、前記切欠き端部よりも前記他端部側に配置されることを特徴とする請求項 1 に記載のスライダー付きバッグ。

**【請求項 3】**

前記スライダーは、該スライダーが前記一端部へ向かってスライドする際に、前記一対の密閉レールを外側から押圧することで前記一対の密閉レールを嵌合状態とする絞り機構を有し、

前記スライダーを前記バッグが密閉状態となる位置に配置したとき、前記絞り機構の前記他端部側の端は、前記切欠き端部よりも前記他端部側に配置されることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載のスライダー付きバッグ。

**【請求項 4】**

前記開放レール及び / 又は前記密閉レールの外側に複数のくぼみが形成されていることを特徴とする請求項 1 ~ 3 のいずれか一つに記載のスライダー付きバッグ。

**【請求項 5】**

前記くぼみは、前記密閉レールの外側のうち、前記切欠き端部の下方の部分には形成されていないことを特徴とする請求項 4 に記載のスライダー付きバッグ。

**【発明の詳細な説明】****【技術分野】****【0001】**

本発明は、スライダー構造を有するプラスチック製のバッグに関する。

**【背景技術】****【0002】**

従来、熱可塑性フィルムを用いた繰り返し開閉可能なバッグの開発がなされている。特に、バッグの開口部にジッパー構造を有し、そのジッパー構造をスライダーにより開放または密閉することにより、バッグを開けたり、閉めたりすることが何度も可能なバッグは、世間一般に広く供給されている。また、スライダーによるジッパー構造の開閉に関する技術開発もこれまでに数多くなされている。例えば、密閉端部において開放レールを除去し、その除去部に分離機構の幅の広い方を収めることで、密閉性を高めることができることが開示されている（例えば、特許文献 1 を参照。）。また、密閉時に使用者が感触によ

10

20

30

40

50

り、ジッパーを密閉していることがわかりやすい構造を有するバッグが開示されている（例えば、特許文献2を参照。）。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献1】特開平5 - 137607号公報

【特許文献2】米国特許出願公開第2012 / 0027322号明細書

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

一般的に、スライダー付きバッグにおけるスライダーはジッパーを開放するための分離機構を有しており、その分離機構は開放レールに作用することで密閉レールを開閉する。特許文献1における分離機構は、バッグを密封状態とした場合に、分離機構の幅の広い方の端部の突出部がノッチ構造の端部に係合していることが記載されている（特許文献1の段落0026）。さらに、分離用フィンガの幅の狭い方の端部が、密閉レールを開かずに開放レールの間に受容されるようにする横方向の寸法を有することが好ましいことが記載されている（特許文献1の段落0009）。これらの記載から、特許文献1における分離機構では、図9に示すように、分離機構の幅の狭い方は開放レールに刺さったままになっているものと認められる。そのため、開放レールを開放する幅の広い部分と開放レールとが近接しており、不可抗力によって分離機構の幅の広い部分が開放レールに作用し、使用者が意図しない状況において密閉性が損なわれるケースがあるという問題を有している。

【0005】

本発明は、上記の課題に鑑みてなされたものであり、本発明の主たる目的は、使用者がスライダー付きバッグを開け易く、かつ使用者の意図しない状況において密閉状態が解除されてしまわないスライダー付きバッグを提供することである。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本発明に係るスライダー付きバッグは、上記課題を解決するために、バッグの開口部に取り付けられているスライダーを、前記開口部に設けられたスライダーガイド機構の一端部から他端部に沿って前記一端部側にスライドさせることによって前記バッグを密閉状態とし、その後、前記他端部側にスライドさせることによって、前記密閉状態を解除することで、前記開口部の開閉が可能なスライダー付きバッグであって、前記スライダーガイド機構は、嵌合することによって前記バッグを密閉状態とするために、前記開口部に沿うように、互いに対向して設けられている一対の密閉レールと、該密閉レールよりも前記バッグの開口縁側に該密閉レールに沿って設けられている一対の開放レールと、前記一端部側の前記開放レールの端部に連設し、前記バッグを密閉状態とした際に、前記スライダーに設けられている分離機構が前記開放レールに接しないようにするための切欠き端部と、を有し、前記バッグが密閉状態であるときに、前記一対の開放レール同士の間には、空隙が設けられており、前記スライダーが前記他端部へ向かってスライドする際に、前記分離機構が前記一対の開放レールの間の前記空隙に挿入されることで、前記一対の密閉レールの嵌合状態を解除することを特徴とする。すなわち、スライダー付きバッグが密閉状態であるときに、分離機構は開放レールから外れるように配置されるので、使用者が所望しない場合に分離機構が開放レールの間に挿入されて密閉状態が解除されることを避けることができる。また同時に、一対の開放レールの間には空隙があるため、使用者が密閉状態を解除したい場合、すなわちスライダー付きバッグを開けたい場合には、分離機構が開放レールの間に挿入しやすい構成となっている。これにより、本発明に係るスライダー付きバッグでは、使用者がスライダー付きバッグを開け易く、かつ使用者の意図しない状況において密閉状態が解除されてしまわないという効果を奏する。

【0007】

本発明に係るスライダー付きバッグでは、前記スライダーは、前記スライダーガイド機

構を跨ぐ頂面部を有し、前記スライダーを前記バッグが密閉状態となる位置に配置したとき、前記頂面部の前記他端部側の端は、前記切欠き端部よりも前記他端部側に配置されることが好ましい。頂面部の少なくとも一部が常に開放レール上に配置されることとなるため、スライダーが開放レールで支持されて、スライダーガイド機構の長手方向に直交する方向でのスライダーのがたつきを抑制することができる。

【0008】

本発明に係るスライダー付きバッグでは、前記スライダーは、該スライダーが前記一端部へ向かってスライドする際に、前記一对の密閉レールを外面から押圧することで前記一对の密閉レールを嵌合状態とする絞り機構を有し、前記スライダーを前記バッグが密閉状態となる位置に配置したとき、前記絞り機構の前記他端部側の端は、前記切欠き端部よりも前記他端部側に配置されることが好ましい。絞り機構の少なくとも一部が常に開放レールの外側に配置された状態となるため、開放動作をよりスムーズに行うことができる。

10

【0009】

本発明に係るスライダー付きバッグでは、前記開放レール及び／又は前記密閉レールの外側に複数のくぼみが形成されていることが好ましい。上記の構成によれば、本発明に係るスライダー付きバッグは、密閉または開放時にスライダーを開放レール及び／又は密閉レールでスライドすると、くぼみの効果によって使用者の指への感触や耳への擦れ音が得られ、ジッパーの開閉したことを五感で体感することができるという更なる効果を奏する。

【0010】

本発明に係るスライダー付きバッグでは、前記くぼみは、前記密閉レールの外側のうち、前記切欠き端部の下方の部分には形成されていないことが好ましい。スライダーがバッグを密閉状態となる位置に配置されたとき、くぼみによる感触や擦れ音がなくなる作用があるため、バッグが密閉状態となったことが実感できる効果がある。

20

【発明の効果】

【0011】

本発明は、使用者がスライダー付きバッグを開け易く、かつ使用者の意図しない状況において密閉状態が解除されてしまわないスライダー付きバッグを提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【0012】

【図1】本実施形態に係るスライダー付バッグの一例の全体を示す図である。

30

【図2】図1のA-A線破断面図である。

【図3】図1のB-B線破断面図である。

【図4】図1のC-C線破断面図である。

【図5】スライダーの一例を底面から見た図である。

【図6】スライダーの一例を頂面から見た図である。

【図7】スライダーをバッグが密閉状態となる位置に配置したときの、スライダーの頂面部と切欠き端部との位置関係を説明するための図である。

【図8】スライダーをバッグが密閉状態となる位置に配置したときの、スライダーの絞り機構と切欠き端部との位置関係を説明するための図である。

40

【図9】従来のスライダー付きバッグにおけるスライダーをバッグが密閉状態となる位置に配置したときの、スライダーと切欠き端部の位置関係を示す図である。

【発明を実施するための形態】

【0013】

[スライダー付バッグ1]

本実施形態に係るスライダー付きバッグ1の構成について、図1および図2を参照して説明すれば以下のとおりである。

【0014】

図1に示すように、スライダー付きバッグ1は、バッグ10、スライダーガイド機構(以降、ジッパーということもある。)11およびスライダー12を備える。これらの部材

50

について以下に説明する。なお、図１は本実施形態に係るスライダー付バッグの一例の全体を示す図である。

【００１５】

[ バッグ１０ ]

バッグ１０は、スライダー付きバッグ１に収容される内容物を収容する収容部である。バッグ１０は、例えば、ポリエチレン、ポリプロピレンなどの熱可塑性フィルムから形成され、内容物が視認できるよう透明なフィルムであることが好ましい。バッグ１０は、開口部２を除いた底部３および側部４においてフィルムが接合された形状である。ここでは、便宜上、バッグ１０を構成するフィルムを図２に示すようにフィルム１３とフィルム１４との２つのフィルムで表記する。もちろんフィルムは２つを用いる必要はなく、１つのフィルムを折り曲げることでバッグ状としてもよい。

10

【００１６】

[ スライダーガイド機構（ジッパー）１１ ]

ジッパー１１は、バッグ１０の開口部２を何度も開閉することが可能とする部材である。ジッパー１１は、図１および図２に示すように、バッグ１０の開口部２の内周に沿って取り付けられている。ジッパー１１は、バッグ１０の開口部２の内周縁に設けられることが好ましい。図２は、図１のＡ－Ａ線破断面図である。ジッパー１１の詳細な構成については下記に詳述する。

【００１７】

[ スライダー１２ ]

20

スライダー１２は、図３～図６に示すように、ジッパー１１を跨ぐような中央部に空間を有する、いわゆる跨座式状であり、中央部の空間にジッパー１１を収容してジッパー１１に沿ってスライドする部材である。スライダー１２の形状は特に限定されるものではないが、側面部１２１と頂面部１２２とを有することが好ましい。側面部１２１は、ジッパー１１の側面に配置される壁である。図１に示すように、スライダー１２の側面部１２１の外表面には、作業時の指の引っかかりをよくするために鋸状のグリップ２２が形成されていることが好ましい。スライダー１２の側面部１２１の内表面には、図３に示すように、絞り機構２７が形成されていることが好ましい。また、スライダーの頂面部１２２は、図６に示すように、対向する側面部１２１同士の間を連結し、ジッパー１１の上方に配置される壁である。図６では、頂面部１２２のスライド方向（図６では左右方向）の長さが、側面部１２１のスライド方向の長さよりも短い形態を示したが、本発明はこれに限定されず、頂面部１２２のスライド方向の長さが、側面部１２１のスライド方向の長さと同じであってもよい。スライダー１２の頂面部１２２の内表面には、図４及び図５に示すように、バッグ１０の開口部に向かって凸形状の分離機構２５が形成されている。また、スライダー１２は、図５に示すように、底面に爪部１２３，１２４を有することが好ましい。

30

【００１８】

スライダー１２は、バッグ１０およびジッパー１１と異なる配色である方がスライダー１２を見つけやすく作業上好ましい。もちろん同一色としてもよい。スライダー１２は、単一のプラスチック片であることが好ましい。スライダー１２の材質としては、ナイロン、ポリプロピレン、ポリスチレン、デルリン（Ｄｅｌｒｉｎ）（登録商標）あるいはＡＢＳ等を挙げることができる。また、図３は、図１のＢ－Ｂ線破断面図であり、図４は、図１のＣ－Ｃ線破断面図である。

40

【００１９】

[ ジッパー１１の構成 ]

次に、ジッパー１１の詳細な構成について、図１～図３を参照しつつ以下に説明する。ジッパー１１は、図２及び図３に示すように、一对の開放レール２１Ａおよび２１Ｂ、ならびに、一对の密閉レール２０Ａおよび２０Ｂを備えている。ジッパー１１の両端部には、図１に示すように、スライダー１２をスライドさせた際、スライダー１２がバッグ１０から分離しないよう密閉端部２３Ａ，２３Ｂを有することが好ましい。密閉端部２３Ａ，２３Ｂは、密閉レール２０Ａ、密閉レール２０Ｂ、開放レール２１Ａおよび開放レール２

50

１Ｂを潰して相互に融着させて形成してもよい。また、ジッパー１１は、切り欠き端部２４を有している。図１のように、スライダー付きバッグ１が開放状態にあるときにスライダー１２は切り欠き端部２４以外に配置される。また、スライダー付きバッグ１が密閉状態の時は、図１の二点鎖線で示すように、切り欠き端部２４にスライダー１２が配置されている。

#### 【００２０】

本実施形態に係るスライダー付きバッグ１では、開放レール２１（２１Ａ，２１Ｂ）及び／又は密閉レール２０（２０Ａ，２０Ｂ）の外側に複数のくぼみ２６が形成されていることが好ましい。くぼみ２６は、例えば、図１に示すように、密閉レール２０Ａと開放レール２１Ａとにわたって形成されていることが好ましい。同様に、くぼみ２６は、密閉レール２０Ｂと開放レール２１Ｂとにわたって形成されていることが好ましい。くぼみ２６は複数設けられていることが好ましい。くぼみ２６が複数設けられているとき、くぼみ２６のそれぞれは等間隔で形成されていることが好ましい。図１では、くぼみ２６が、開放レール２１（２１Ａ，２１Ｂ）及び密閉レール２０（２０Ａ，２０Ｂ）の両方の外側に設けられている形態を示したが、本発明はこれに限定されず、くぼみ２６が、開放レール２１（２１Ａ，２１Ｂ）のの外側だけに設けられている形態（不図示）、または密閉レール２０（２０Ａ，２０Ｂ）の外側だけに設けられている形態（不図示）であってもよい。

#### 【００２１】

（密閉レール２０Ａ、２０Ｂ）

まず、密閉レール２０Ａ、２０Ｂについて図２を参照しつつ以下に説明する。密閉レール２０Ａは、フィルム１３の開口部２に設けられている帯状基部１５と、帯状基部１５の内側に突出形成された鉤状部１７とを有する。密閉レール２０Ｂは、フィルム１４の開口部に設けられている帯状基部１６と、帯状基部１６の内側に突出形成され、鉤状部１７と相互に咬み合い可能な鉤状部１８とを有する。鉤状部１７、１８は一組以上設けられていてもよい。鉤状部１７、１８が二組以上設けられている場合には、スライダー付きバッグ１の密閉性がさらに密閉性が高くなり、内容物が漏れる確率が小さくなる。なお、図２では、便宜上、帯状基部１５、１６と鉤状部１７，１８とを一体の部材として示しているが、これらは別体の部材であってもよい。

#### 【００２２】

（開放レール２１Ａ、２１Ｂ）

続いて、開放レール２１Ａ、２１Ｂについて図２を参照しつつ以下に説明する。開放レール２１Ａは、帯状基部１５におけるフィルム１３側と逆側に設けられている帯状基部２１１Ａと、帯状基部２１１Ａの内側に突出形成された突条部２１２Ａとを有する。開放レール２１Ｂは、帯状基部１６におけるフィルム１４側と逆側に設けられている帯状基部２１１Ｂと、帯状基部２１１Ｂの内側に突出形成された突条部２１２Ｂとを有する。なお、図２では、便宜上、帯状基部２１１Ａ，２１１Ｂと突条部２１２Ａ，２１２Ｂとを一体の部材として示しているが、これらは別体の部材であってもよい。また、図２では、密閉レール２０（２０Ａ，２０Ｂ）の帯状部１５，１６と開放レール２１（２１Ａ，２１Ｂ）の帯状部２１１Ａ，２１１Ｂとを一体の部材として示しているが、これらは別体の部材であってもよい。

#### 【００２３】

〔開放レール２１Ａ、２１Ｂおよび密閉レール１９、２０の構成〕

ここで、開放レール２１（２１Ａ、２１Ｂ）は、スライダー付バッグ１が密閉状態であるとき、分離機構２５において密閉レール２０（２０Ａ，２０Ｂ）の箝合状態の解除を生じさせる幅よりも小さい距離の空隙３０を有するよう開口部２に設けられていることが好ましい。使用者が密閉状態を解除したい場合、分離機構２５が開放レール２１（２１Ａ，２１Ｂ）の間に挿入しやすい構成となっている。開放レール２１Ａ、２１Ｂ及び／又は密閉レール１９、２０外側には複数のくぼみ２６が形成されている。スライダー１２をスライドしジッパー１１を開けたり、閉めたりしたときに、くぼみ２６の効果によって指への感触や耳への擦れ音が得られ、ジッパーの開閉したことを五感で体感することができる。

一方、密閉レール 20 (20A, 20B) の外側のうち、切欠き端部 24 の下方の部分にはくぼみ 26 が形成されていないことが好ましい。スライダ付きバッグ 1 が密閉状態となった時、すなわち分離機構 25 が開放レール 21 (21A, 21B) に接触しなくなった時、くぼみ 26 からの感触がなくなる作用があり、それにより密閉状態となったことが実感できる効果がある。

#### 【0024】

(切欠き端部 24)

切欠き端部 24 について図 1 を参照しつつ以下に説明する。切欠き端部 24 は、開放レール 21 (21A, 21B) の一方の端部 2a 側を切り欠いた部分である。スライダ付きバッグ 1 を密閉状態とした際に、スライダ 11 に設けられている分離機構 25 (図 5 に図示) の全体が切欠き端部 24 内に収容される。切欠き端部 24 は、開放レール 21 (21A, 21B) だけを切り欠いた部分であり、切欠き端部 24 の下方には、密閉レール 20 (20A, 20B) が延在することが好ましい。

#### 【0025】

また、ジッパー 11 は、図 2 に示すように、密閉レール 20 (20A, 20B) よりもフィルム 13, 14 側に密閉レール 20 (20A, 20B) に沿って設けられているガイドレール 40 (40A, 40B) を有することが好ましい。ガイドレール 40A は、帯状基部 15 におけるフィルム 13 側に設けられている帯状基部 41A と、帯状基部 41A の外側に突出形成された突条部 42A とを有する。ガイドレール 40B は、帯状基部 16 におけるフィルム 14 側に設けられている帯状基部 41B と、帯状基部 41B の外側に突出形成された突条部 42B とを有する。スライダ 12 の爪部 123, 124 (図 5 および図 6 に図示) が、ガイドレールの突条部 42A, 42B に係合することで、スライダ 12 がジッパー 11 に沿って移動可能となる。また、スライダ 12 の爪部 123, 124 は、ガイドレールの突条部 42A, 42B の直下に配置されることが好ましい。ジッパー 11 の長手方向に直交する方向でのスライダ 12 のがたつきを抑制することができる。帯状基部 41A, 41B は、密閉レールの帯状基部 15, 16 と一体であるか又は別体であってもよい。

#### 【0026】

[分離機構 25]

スライダ 12 に設けられている分離機構 25 の構成について図 5 を参照しつつ、以下に説明する。図 5 は、スライダの一例を底面から見た図である。図 5 に示すように、分離機構 25 の形状は、例えば、幅広部 251 と、幅広部 251 よりも幅が狭い幅狭部 252 とを有し、図 1 に示す切り欠き端部 24 側 (一方の端部 2a 側) に幅広部 251、その逆側 (他方の端部 2b 側) が幅狭部 252 が来るようにスライダ 12 がジッパー 11 に取り付けられている。もちろん、図 5 に図示した形状は一例であり、分離機構 25 における切り欠き端部 24 側の幅が、その逆側の幅よりも大きい構成であればよく、例えば二等辺三角形柱であってもよい。分離機構 25 の形状が二等辺三角形柱であるとき、一方の端部 2a (図 1 に図示) 側に二等辺三角形の底辺、他方の端部 2b (図 1 に図示) 側に二等辺三角形の最も角度の小さい頂角がくるように、スライダ 12 がジッパー 11 に取り付けられる。

#### 【0027】

分離機構 25 は開放レール 21A と開放レール 21B との間に侵入するように配置されている。使用者がスライダ付きバッグ 1 を開けるときには、スライダ 12 をジッパー 11 に沿って他方の端部 2b 側 (図 1 では右側) ヘスライドさせることによって、分離機構 25 が開放レール 21A と開放レール 21B との間に挿入される。これにより、分離機構 25 により密閉レール 20A と密閉レール 20B とが押し広げられることによって、鉤状部 17、18 の咬み合いが解かれ、密閉レール 20 (20A, 20B) の嵌合状態が解除される。

#### 【0028】

[絞り機構 27]

スライダー 12 に設けられている絞り機構 27 の構成について図 3 及び図 5 を参照しつつ、以下に説明する。絞り機構 27 は、図 5 に示すように、スライダー 12 の側面部 121 の内表面のうち、分離機構 25 の幅狭部 252 よりも他方の端部 2b 側（図 5 では右側）となる位置に設けられる突起である。絞り機構 27 の突出量は、スライダー 12 をジッパー 11 に取り付けたときに、一对の密閉レール 20（20A, 20B）を外側から押圧することができる量である。使用者がスライダー付きバッグ 1 を閉めるときは、スライダー 12 をジッパー 11 に沿って一方の端部 2a 側（図 1 では左側）へスライドさせることによって、絞り機構 27 が密閉レール 20A と密閉レール 20B とを外側から押圧する。これによって、鉤状部 17, 18 が相互に咬み合い、密閉レール 20（20A, 20B）が嵌合状態となる。

10

#### 【0029】

図 7 は、スライダーをバッグが密閉状態となる位置に配置したときの、スライダーの頂面部と切欠き端部との位置関係を説明するための図である。本実施形態に係るスライダー付きバッグ 1 では、スライダー 12 は、スライダーガイド機構 11 を跨ぐ頂面部 122 を有し、頂面部 122 の他端部側（図 7 では右側）の端 122b は、切欠き端部 24 よりも他端部 2b 側に配置されることが好ましい。頂面部 122 の少なくとも一部が常に開放レール 21（21A, 21B）上に配置されることとなるため、スライダー 12 が開放レール 21（21A, 21B）で支持されて、ジッパー 11 の長手方向に直交する方向でのスライダー 12 のがたつきを抑制することができる。

20

#### 【0030】

図 8 は、スライダーをバッグが密閉状態となる位置に配置したときの、スライダーの絞り機構と切欠き端部との位置関係を説明するための図である。本実施形態に係るスライダー付きバッグ 1 では、スライダー 12 は、スライダー 12 が一端部 2a へ向かってスライドする際に、一对の密閉レール 20（20A, 20B）を外側から押圧することで一对の密閉レール 20（20A, 20B）を嵌合状態とする絞り機構 27 を有し、スライダー 12 をバッグ 1 が密閉状態となる位置に配置したとき、絞り機構 27 の他端部側（図 8 では右側）の端 27b は、切欠き端部 24 よりも他端部 2b 側に配置されることが好ましい。絞り機構 27 の全体が切欠き端部 24 内に配置されると、開放動作時に絞り機構 27 が開放レール 21（21A, 21B）の段差を乗り越えるとき、使用者が引っかかりを感じるおそれがあるところ、絞り機構 27 の少なくとも一部が常に開放レール 21（21A, 21B）の外側に配置された状態とすることで、使用者が引っかかりを感じることなく、開放動作をよりスムーズに行うことができる。

30

#### 【0031】

##### [スライダー付きバッグ 1 の利点]

以上説明したように、スライダー付きバッグ 1 は、密閉状態であるときにスライダー 12 が配置される側の開放レール 21（21A, 21B）の端部が、分離機構 25 に接しないように切り欠かれて切欠き端部 24 が設けられていると同時に、開放レール 21A と開放レール 21B とは、その間に空隙 30 が生じるように設けられている。すなわち、スライダー付きバッグ 1 が密閉状態であるときに、分離機構 25 は開放レール 21（21A, 21B）から外れるように配置されるので、使用者が所望しない場合に分離機構 25 が開放レール 21A と開放レール 21B との間に挿入されて密閉状態が解除されることを避けることができる。また同時に、開放レール 21A と開放レール 21B との間には空隙 30 があるため、使用者が密閉状態を解除したい場合、すなわちスライダー付きバッグ 1 を開けたい場合には、分離機構 25 が開放レール 21A と開放レール 21B との間に挿入しやすい構成となっている。これにより、スライダー付きバッグ 1 では、使用者がスライダー付きバッグ 1 を開け易いと同時に、使用者の意図しない状況において密閉状態が解除されてしまうことを避けることができる。

40

#### 【0032】

開放レール 21（21A, 21B）および密閉レール 20（20A, 20B）の外側には複数のくぼみ 26 が形成されている。スライダー 12 をスライドしジッパー 11 を開け

50

たり、閉めたりしたときに、くぼみ 2 6 の効果によって指への感触や耳への擦れ音が得られ、ジッパー 1 1 の開閉の確認を体感することができる。

【 0 0 3 3 】

本発明は上述した実施形態に限定されるものではなく、請求項に示した範囲で種々の変更が可能であり、異なる実施形態にそれぞれ開示された技術的手段を適宜組み合わせて得られる実施形態についても本発明の技術的範囲に含まれる。

【産業上の利用可能性】

【 0 0 3 4 】

本発明に係るスライダー付きバッグは密閉性が高く、食品等を収容するのに好適に利用することができる。

10

【符号の説明】

【 0 0 3 5 】

- 1 スライダー付バッグ
- 2 開口部
- 2 a 一端部
- 2 b 他端部
- 3 底部
- 4 側部
- 1 0 バッグ
- 1 1 ジッパー（スライダーガイド機構）
- 1 2 スライダー
- 1 3 フィルム（バッグ 1 0 の片側）
- 1 4 フィルム（バッグ 1 0 の片側）
- 1 5 帯状基部
- 1 6 帯状基部
- 1 7 鉤状部
- 1 8 鉤状部
- 2 0（2 0 A，2 0 B） 密閉レール
- 2 1（2 1 A，2 1 B） 開放レール
- 2 2 グリップ
- 2 3 A，2 3 B 密閉端部
- 2 4 切り欠き端部（端部）
- 2 4 b 切り欠き端部の他端部側の端
- 2 5 分離機構
- 2 6 くぼみ
- 2 7 絞り機構
- 2 7 b 絞り機構の他端部側の端
- 3 0 空隙
- 4 0（4 0 A，4 0 B） ガイドレール
- 4 1 A，2 1 B 帯状基部
- 4 2 A，4 2 B 突条部
- 1 2 1 側面部
- 1 2 2 頂面部
- 1 2 2 b 頂面部の他端部側の端
- 1 2 3，1 2 4 爪部
- 2 1 1 A，2 1 1 B 帯状基部
- 2 1 2 A，2 1 2 B 突条部
- 2 5 1 幅広部
- 2 5 2 幅狭部

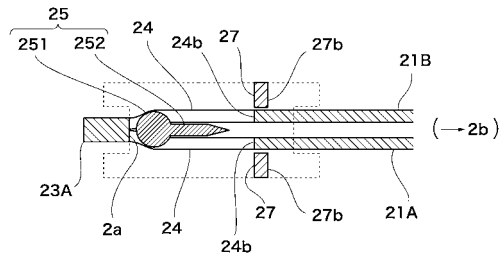
20

30

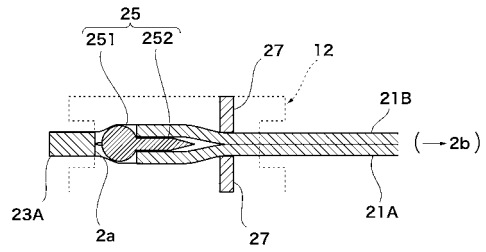
40



【 図 8 】



【 図 9 】



---

フロントページの続き

(72)発明者 寶田 昌也

大阪市中央区北久宝寺町 3 - 5 - 1 2 御堂筋本町アーバンビル 1 0 F オルディ株式会社内

F ターム(参考) 3B098 AA10 AB07 CA13 CC02 CC04 DB05

3E064 AA01 AD15 BA21 EA30 FA03 HM01 HN20